
おいしい夕食

忍野佐輔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おいしい夕食

【Nコード】

N3618V

【作者名】

忍野佐輔

【あらすじ】

休日出勤から帰宅した雅之は、同棲している美咲の夕食に舌鼓を打つ。

そんな『おいしい夕食』には、ある秘密があった。

習作の掌編です。

サークルHPでも掲載しております。

電子書籍発信サークル【結晶文庫】

「お疲れ様」

玄関までやってきた美咲が仕事鞆を受け取ってくれた。雅之は「ありがとう」と笑顔を返した。

このアパートで美咲と同棲を始めて三ヶ月。まだいくつかの問題はあるが、上手くやっていると思う。

雅之は美咲に礼を言いつつ、リビングへのドアを開けた。すぐに芳しい香りが漂ってくる。

「あれ？ 夕飯ができてる……」

「そっ、手料理だよ？」

弾けるような笑顔で言う美咲に、雅之は素直に驚いた。美咲は「料理は出来ない」と言っていたのに、いつの間に勉強したのだろうか。

「ね、一緒に食べよう」

よほどの自信作なのか、美咲はいつにない笑顔でテーブルにっている。雅之も上着を脱ぎ、久しぶりに食べる『彼女』が作ってくれた料理を堪能する事にした。

「あ……美味い」

雅之は思わず感嘆の声を漏らした。意外と言っては美咲に失礼だろうが、料理は初挑戦とは思えないほど美味かったのだ。

肉じゃがを口に運びながら、雅之は横目で美咲を見る。美咲の手にはいくつもの絆創膏。腕にまで貼られている辺り、相当な苦労だったのだろう。

「どう？ 美味しい？」

「もちろん！ なんていうか、俺の好みの味付けだし……俺の事を考えて作ってくれたんだなって」

「そ、そう……」

雅之の感想を聞いた美咲は恥ずかしそうに顔を俯かせてしまう。

流石にクサかっただろうか、と雅之は美咲の様子を窺う。

「……あのさ」

美咲は顔を俯かせたまま、口を開いた。

「実はね……」

「ん？ どうした」

雅之の位置からでは、美咲の表情を窺う事は出来ない。だが声色は先程までの明るいものでは無くなっていた。雅之は何事かと思い、箸を止める。

美咲は一語ずつ言葉を選ぶように、ゆっくりと言った。

「その料理……私が作ったんじゃないんだ」

「え？ でもさっき手料理って――」

「そう。明日香さんの、手料理」

カラン、と雅之の手から箸が落ちる。

明日香。

その名前は雅之が二股をかけている女性の名前だった。

「ねえ……そんなに肉じゃが美味しい？」

「み、美咲。あのな……」

「そんなに、雅之の事を考えて作ってある？」

「待ってくれ美咲。事情を……」

「ううん、大丈夫。全部知ってるから。雅之は料理が上手な女の子の方が好きなんだよね。だから明日香さんの家に通ってたんだよね。休日出勤、いつもご苦勞様。こんなに手料理食べなきゃいけないんだから」

美咲はゆらりと立ち上がり、寢室に通じる襖を開けた。

「でも大丈夫よ。もう、休日出勤なんてしなくていいから」

むわり、と流れ出る金属臭。それは人間なら吐き気を感じずにはいられないもの。寢室に横たわるソレを見た雅之は、「なんてことをしたんだ」という意味を込めて美咲を睨んだ。

美咲はその視線を正面から受け止める。

傷だらけの両腕を撫でながら、雅之に笑いかけた。

「ねえ、私の手料理も食べてみてよ。——一人で捌くの、大変だったのよ？」

『完』

(後書き)

サクッと読んで楽しめる作品を目指した習作です。
浮気的な友人を思い出しつつ書いてみました。

もし楽しんで頂けたなら意見や感想を頂けると嬉しいです。

作品は所属サークルでも掲載しております。

電子書籍発信サークル【結晶文庫】

<http://kesho-bunko.style.cooc>

[an.jp/index.html](http://index.html)

忍野佐輔プロフィール

<http://kesho-bunko.style.cooc>

[an.jp/syokaisasuke.html](http://syokaisasuke.html)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3618v/>

おいしい夕食

2011年10月9日11時17分発行